

セアカゴケグモに注意して下さい！

今治市内で、特定外来生物「セアカゴケグモ」が複数地点確認されています。有毒のクモですが、人間に対する攻撃性は無く、愛媛県内の咬傷被害はありません。見かけた場合は素手で触らず、市販の殺虫剤等で駆除をお願いします。

セアカゴケグモとは？

セアカゴケグモ (*Latrodectus hasselti*)

【特定外来生物】

原産地：オーストラリア、東アジア、南太平洋諸国

雌にα-ラトロトキシンという神経毒があり、咬まれると激しい痛みや腹部痙攣を生じさせます。日本では咬傷被害による死亡例はありません。1995年に大阪府と三重県で国内初確認され、現在は日本各地で生息が確認されています。愛媛県では、2014年に初確認され、現在は各地で散発的に確認されている状況です。

■営巣の特徴

地上部に営巣するクモと異なり、不規則な管状の巣を**地表の隙間に作ります**。巣には落ち葉等が付着し、クモの巣と判断できないことがあります。

■産卵と幼体

野外では一生の間で最大7～8卵嚢（らのう）を産みます。1卵嚢あたりの卵数は100～200個で、産卵後約20日で幼体が出囊し、雌は約70日、雄は約40日で成熟します。

セアカゴケグモの特徴



不規則な白斑紋が出ることがあります。

背には黒地に赤い斑紋

歩脚は黒色

体長♀:7-10mm
♂:2-3mm

♀実物大

セアカゴケグモの卵のう
6～8mm

1つの卵嚢には100～200個の卵が入っています。

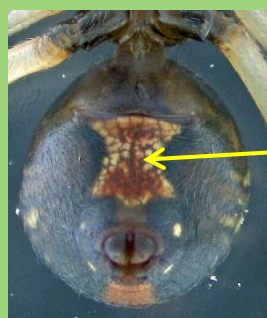


オスが見つかることは稀です。

セアカゴケグモ（雄）



出囊した幼体
1mm



腹部腹面に
砂時計状の赤い斑紋

これはハイイロゴケグモなど、他のゴケグモ属のクモにも共通する特徴です。

人家周辺で見つかりやすい
セアカゴケグモに似た無毒のクモ



写真提供: 鶴崎展巨教授(鳥取大学)

オオヒメグモ

人家周辺でもっともよく見られる在来種のヒメグモ(無害)



写真提供: 鶴崎展巨教授(鳥取大学)

マダラヒメグモ

人家周辺でよく見られる外来種のヒメグモ(無害)

2種共に、腹部腹面に**砂時計状の赤い斑紋はありません**。

営巣場所と営巣状況



セアカゴケグモに咬まれたら...

見かけた場合は素手で触らずに市販の殺虫剤で駆除してください。卵嚢には殺虫剤の効果が低いので、袋に入れて踏みつぶしてください。

万一、セアカゴケグモに咬まれた場合、傷口を流水で洗った後、患部を冷やしながら医療機関を受診してください。

受診時に咬まれたクモを殺虫して持参すれば適切な治療に繋がります。

★外来生物被害予防3原則★

入れない

捨てない

拡げない

問合せ先

今治市市民環境部環境政策課

Tel 0898-36-1535 Mail kankyou@imabari-city.jp